



# News Letter

No.2 2006.7 発行

## contents

部門長挨拶	1
産学官連携考～現状と課題	2
センター活動報告	2
平成17年度共同研究受入・技術相談件数	5
スタッフ・客員教授紹介	6
地域医学共同研究部門運営委員会	6
編集後記	6



## 部門長挨拶

産学連携センター地域医学共同研究部門長 木下 芳一



常々より産学連携センター地域医学共同研究部門の運営に御協力いただきありがとうございます。平成16年につくられました本部門も立ち上げより2年近く経過し、その運営も安定化しつつあると思います。私共の部門も立ち上げの時期は終わり、いよいよ島根県らしい、島根県以外では行い得ない Originality が高く、地域の特性を生かした、high qualityの医学、医療関係の産学連携事業を行っていくことが成否の分かれ道となる時期となったと考えております。医学、医療は、病態解析、予防、診断、治療と分けられますが、これらの各分野にわたって島根県の宝物である豊かな自然、creative な仕事には必須のゆっくりと流れる時間、そして日本一の高齢者人口を使った、これらを生かした creative でhigh quality な情報を発信していく手伝いできれば幸いと考えております。産学連携センターは異種のアイディアどうしを、アイディアと技術を、技術どうしをくっつける接着剤です。上手に接着剤をご利用いただき、大きな建物を建てていただければ幸いです。

# 産学官連携考～現状と課題

産学連携センター地域医学共同研究部門 中村 守彦

旧国立大学が一斉に法人化されて二年が過ぎましたが、この間に大学の二極分化が予想以上に早く進んでいます。特に地方大学は共通の悩みを多く抱えており、産学連携活動もその一つです。地理的条件や規模に拘わらず、社会は大学に地域貢献を強く求めており、産学連携が大学の意思表示であることに論を待ちません。地域にはそれぞれの文化や歴史があります。そして島根県のような地方は、大企業が少ない分だけ自然に恵まれています。地域環境・社会と調和し、地域とともに発展することが地方大学の大きな課題です。従って、大学は産学連携あるいは地域連携の構築を積極的に進め、その過程で存在価値・意義を自問し、そこから社会・国民に「知の拠点」として支持されるための「解」を更に求めていくことになります。

これまでの大学は、研究活動の成果を難しい専門用語や英語で記載した研究論文として主に発表してきたため、その多くは殆ど一般社会に理解されてきませんでした。旧制度においては、その必要性を感じなかった、と言えるかもしれません。大学改革がこの先、どのように進められようとも、基礎研究の価値は無限であり、その重要性は不変です。一方で、研究成果あるいは、その技術・知識を社会のために役立てる工夫が「知の競争」を勝ち抜くための重要な鍵となります。

手元に興味深い最新のデータがあります。東京大学先端科学研究所が発表したものですが、東京大学のスター研究者（研究論文の発表における上位10%）は同時に産学連携にも積極的で実績を上げているというものです。これは、本学にもそのまま当てはまる気がします。これからは、基礎研究の段階から産学協同により実用化に向けた研究を進める大学が増えてくるのは間違いありません。そして今後、期待される研究の主領域が、ナノテクなどの先進技術と医療が融合した先端医学であることは、国が投じる補助金からも明らかです。このニュースレターでも紹介した通り、医学部から世界に誇れるイノベーション（骨加工技術）が創出されたのは、学内外に大きなインパクトを与えました。

法人化後に意識改革が進んでいる大学に対して、危機意識の希薄な教職員を擁する大学は衰弱の一途を辿ることになるでしょう。自律的な「知の拠点」形成に産学連携は絶対に欠かせません。

## センター活動報告

### イノベーション・ジャパン2005

日時：平成17年9月27日～29日  
場所：東京国際フォーラム  
開催：主催 科学技術振興機構（JST）、  
NEDO（技術開発機構）  
共催 文部科学省、経済産業省、  
日経BP社

展示： **UBSスペシャル・アワード**  
**医療・福祉部門賞受賞**

「『骨には骨を！』

マイクロファクトリーでやさしい手術」

島根大学医学部整形外科 講師 森 隆治、教授 内尾 祐司



全国の国公私立大学から医療・福祉部門へ37の出展があり、日経BP社記者の投票結果により、部門の最高賞に輝きました。

## 21世紀出雲産業見本市2005

日時：平成17年11月12日、13日

場所：出雲ドーム

開催：主催 出雲市 後援 島根大学産学連携センター 他

出展：「マイクロファクトリーでやさしい手術」

整形外科、(株)ナノ

「産学官連携開発の多目的通信システム『ミュー太』」

医療情報部、山陰電工(株)

「世界最高純度のパン酵母由来 グルカン」

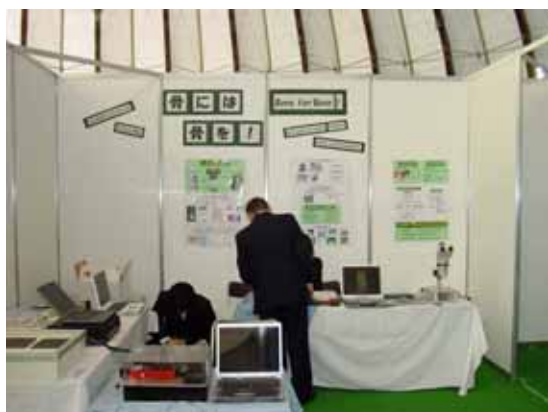
地域医学共同研究部門、(株)アルプロン

「桜江町産桑茶の抗動脈硬化・抗糖尿病作用」

環境予防医学講座、桜江町桑茶生産組合

「調湿木炭の環境アレルギーに対する臨床研究」

皮膚科、出雲土建(株)



展示風景（整形外科）



展示風景（医療情報部）

## 平成17年度大学連携技術講座（高度技術研修）

<身近な暮らしに生かす大学の技術＝住環境技術講座>

日時：平成17年11月30日

場所：電気通信大学青山スカイオフィス

主催：島根大学産学連携センター、  
電気通信大学共同研究センター

講演：「アトピー性皮膚炎と環境抗原対策」

皮膚科学 教授 森田 栄伸

この講座では、安心して暮らすための「住環境技術」についての研究成果や技術についての紹介が行われ、受講者15名（主に建築関係の技術者）が熱心に耳を傾けました。



講演風景

## 中国四国ブロック産学官連携ビジネスショー

日時：平成17年12月8日、9日

場所：桃太郎アリーナ（岡山県体育館）

主催：文部科学省、岡山大学

出展：「医療・福祉・教育向けマルチメディア遠隔通信システム」

医療情報部 助教授 花田 英輔

## 平成17年度 特許セミナー

日時：平成18年1月28日

場所：産学連携センター地域医学共同研究部門  
4階 会議室

講師：(社)発明協会広島県支部 参与 坂本 重道氏  
三枝国際特許事務所 弁理士 中野 睦子氏

参加者：15名(本学教職員、大学院生等)



セミナー風景

## 産業・知的クラスター(中国地域)合同成果発表会

日時：平成18年3月8日、9日

場所：岡山コンベンションセンター

主催：文部科学省、中国経済産業局、(財)ひろしま産業振興機構、  
(財)やまぐち産業振興財団、(社)中国地域ニュービジネス協議会

発表：「骨加工スクリューねじ」

島根大学医学部整形外科 講師 森 隆治

## 第7回島根大学産学交流会

日時：平成18年3月13日

場所：島根大学医学部(出雲キャンパス)

主催：島根大学

記念講演：「私と企業との出会いー基礎研究から医学と産業への応用をめざしてー」

教授 押村 光雄氏 鳥取大学大学院医学系研究科 機能再生医科学専攻

展示：出雲キャンパス 17件

松江キャンパス 20件

企業・自治体等 10件

今回初めて出雲キャンパスで開催され、企業からの出展もありました。医学部からは成功事例として実演もあり、有意義な産学交流会でした。



講演会風景



展示風景

## 益田高校の生徒が産学連携センターで体験学習

日時：平成18年6月13日

益田高等学校の生徒（35名）が「フィールドワーク学習」の一環として、産学連携センター地域医学共同研究部門を訪れました。これは、スーパー・サイエンス・ハイスクール指定校である益田高等学校の依頼を本学が受けたものです。医学部長の挨拶に続いて附属図書館などを見学し、同センターの施設内で体験学習をしました。最後に研修室で専任教員が、医工連携や医農連携による研究事例を高校生向けにやさしく説明し、生徒からの活発な質問を受けました。



益田医学部長の挨拶



産学連携センター研究室で説明を聞く生徒

## 中国地域産学官・クラスターコラボレーションシンポジウム

日時：平成18年6月19日

場所：岡山ロイヤルホテル

主催：中国地域産学官コラボレーション会議、  
中国地域産業クラスターフォーラム

### 地域技術連携功労賞受賞

「多目的双方向通信システムの開発」  
島根大学医学部附属病院医療情報部  
助教授 花田 英輔

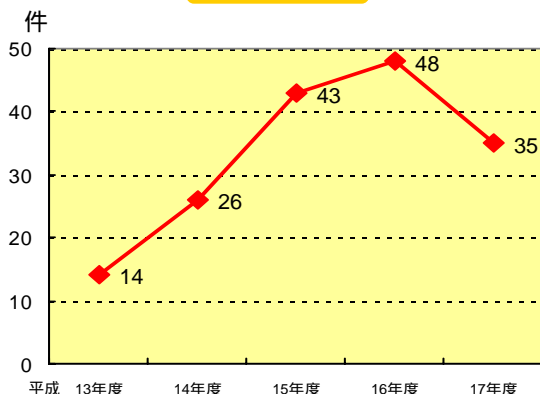
産学連携による地域連携を通して、知的資財を  
実用化に繋げた成果が大きく評価されました。



地域技術連携功労賞受賞の花田助教授

## 平成17年度共同研究受入・技術相談件数（出雲キャンパス）

### 共同研究



### 技術相談



## スタッフ・客員教授紹介

《部門長》	木下 芳一（第2内科学教授・兼任）
《教授》	中村 守彦
《産学連携コーディネーター》	堀江 修二
《事務補佐員》	山崎 享子
《技能補佐員》	小村 里美
《医学部大学院生》	水津 拓三
《客員教授》	小村 洋司（山陰建設工業株式会社 代表取締役社長） 中村 俊郎（中村ブレイス株式会社 代表取締役社長）

## 地域医学共同研究部門運営委員会委員

《部門長》	第2内科学	教授	木下 芳一
《産学連携マネージャー》	地域医学共同研究部門	教授	中村 守彦
《産学連携コアメンバー》	病態病理学	教授	並河 徹
	公衆衛生学	教授	藤田 委由
	小児科学	教授	山口 清次
	整形外科	教授	内尾 祐司
	皮膚科学	教授	森田 栄伸
	地域看護学	教授	人見 裕江
	医療情報部	助教授	花田 英輔

### 編集後記

山口清次前部門長の4年間に渡るご尽力により、当部門の活動基盤が構築されました。そして、その成果をここに報告できましたのも、皆様の産学連携に対する深いご理解と暖かいご支援の賜であると、この場を借りて御礼申し上げます。

この4月から第2内科学講座の木下芳一教授が部門長を兼任されることになり、本ニュースレターでご紹介した新体制で本格的に事業を展開していくことになりました。「部門長挨拶」にありますよう、島根の特徴を最大限に活かした産学連携活動を推進してまいりますので、今後も引き続きご鞭撻を賜れば幸いです。

（文責：中村）

News Letter NO.2 2006年7月発行

島根大学産学連携センター地域医学共同研究部門 〒693-8501島根県出雲市塩冶町223-8  
TEL 0853-20-2912 FAX 0853-20-2913 E-mail cmrc@med.shimane-u.ac.jp